

## 年表

# 北区と協働で進めたいリサイクル活動 NPO法人北区リサイクラー活動機構の歩み

※東京都北区のリサイクル施策と重ね合わせるかたちで記述。  
※北区リサイクラー活動機構として重要な事項、エポックとなる事項をゴシック体で強調。  
※関連法や東京都の取り組みを青字で記述。

### 平成2年(1990)

- 10月 23区長会により「ゴミ減量リサイクル宣言」が行われたのを受け北区は、行政と住民が参加する「リサイクルに関する懇談会」を開催する。

### 平成3年(1991)

- 1月 北区は、リサイクル事業の推進に積極的な取り組みを開始するため、区民部に「リサイクル事業担当」を設け副参事を配置する。
- 7月 北区は、リサイクル活動の担い手制度としての「北区リサイクラー会議(第1次)」を一般公募の34人により発足させる。(任期1年で再任なし。以後毎年度ごとに公募・委嘱する) 1991.7:東京都は粗大ごみの有料化を開始する
- 8月 北区は、紙パックの拠点回収を開始する。
- 8月 北区リサイクラー会議は、北区平和祈念祭期間中に「地球あつての、展(テンテン)」を北とびあで開催する。圧巻は「情熱募缶運動」で、区民持ち寄りの空き缶約1800キロを千葉市から借用の空き缶プレスカーをフル回転させる大盛況で収益金18万円余を雲仙普賢岳被災地へ贈る。
- 10月 北区は“リサイクル元年”と銘打った「第8回ふるさと北区区民まつり」を開催、不用品活用市などリサイクル活動に関する催しを取り入れて啓発に力を入れる。
- 10月 機関紙『ザ・リサイクラー』を創刊する。(⇒第25号-1996.3-にて終刊)  
1991.10:特別区長会は「ごみの減量・リサイクル推進宣言」を出す  
1991.10:「資源再生利用促進法(リサイクル法)」が施行される

### 平成4年(1992)

- 1月 北区は、リサイクル活動に関する諮問機関として自治会連合会や各種団体の代表者で構成する「北区リサイクル推進区民会議」(長幸男委員長)を発足させる。  
※以下「区民会議」と略称する。
- 3月 北区は、リサイクラー会議の提案を受け、出張所単位の町会・自治会連合会の協力のもと、「ステーション回収(びん・缶)」運動を開始、モデル地区として東田端と浮間でスタートさせる。同時に、びん・缶ステーション回収ネットワーク「地域リサイクラー協議会」を178の町会代表で発足させる。
- 3月 第1次リサイクラー会議がまとめた素案(報告書)をもとに「区民会議」は、「北区エコライフ宣言—北区リサイクル活動の指針—」として答申する。
- 4月 北区区民部にリサイクル生活課が新設される。
- 6月 北区と区民会議は、「北区エコライフ宣言シンポジウム～北区発・地球サミット行き～」を北とびあで開催する。
- 7月 集団回収支援事業が東京都から区へ移管される。
- 9月 第2次北区リサイクラー会議が発足する。(40人)
- 10月 8日、任期を終えた第1次北区リサイクラー会議メンバーを中心にした140名の会員により「北区リサイクラー活動機構」が創立され、第2次リサイクラー会議とともに活動を継続、機関紙「ザ・リサイクラー」の発行も引き継ぐ。

### 平成5年(1993)

- 1月 北区は、第1次リサイクラー会議において出された活動拠点の必要性の要望を受けて、田端5丁目に富士見橋エコ広場館(仮称)を建設する計画を公表する。
- 1月 北区は、牛乳パックと乾電池を回収するため、ひまわりをデザインした「サンクルポスト」を区内9ヶ所に設置する。

- 3月 北区は、空き缶プレス機械を搭載した2トン積み資源回収車「サンクル号」の発進式を行う。 ※農水省の飲料容器リサイクルパイロット事業実施自治体に選ばれ、その補助金で購入したもの。
- 4月 北区は、学校給食の残渣を堆肥化する取り組みとして区内全域の小中学校に生ごみ処理機の設置を開始する。  
1993.4：東京都は「東京都廃棄物の処理および再利用に関する条例」を施行する
- 4月 北区内のボランティア活動団体が、それぞれに「エコロジーキャンペーン」事業を行いながら、相互に連携して環境問題に取り組むためのネットワーク拡大を目的に「'93エコロジーキャンペーン in 飛鳥山」が企画され、北区リサイクラー活動機構など5団体が参加した。 ※以後毎年参加
- 8月 北区は、平和祈念週間事業の一環として「仲間たち展」を北とぴあ地下展示ホールで開催、リサイクルや環境・国際交流等の活動をする団体・個人の発表の場とする。 ※北区リサイクラー活動機構は以後毎年参加する。
- 8月 北区は、北区リサイクラー活動機構とともにフォーラム「北区リサイクルはこうやって進める」を北とぴあで開催、松田美夜子氏の講演とパネルディスカッション「共生社会を支える仲間たち」を行う。
- 9月 第3次北区リサイクラー会議が発足する。(27人)  
1993.10：東京都はごみ袋によるごみ出しの新ルールを実施する

#### 平成6年(1994)

- 1月 21日、地域リサイクル活動の拠点として「富士見橋エコ広場館」がオープン、記念イベントとして「エコライフ7つのステージ」を開催する。(1/22、1/23)
- 1月 富士見橋エコ広場館の管理運営を受託する。
- 2月 環境問題を地球規模で考え地域で行動していくための地域学習会「明日塾」がスタートする。(毎月第2火曜日、富士見橋エコ広場館で開催)
- 2月 富士見橋エコ広場館で「こども環境教室」がスタートする。
- 2月 エコ広場館の広報紙『かわら版』(月刊)を創刊する。
- 2月 家具・日用雑貨回収事業を開始する。
- 9月 第3次リサイクラー会議は、買い物かごの中から地球環境を考えようと「ショッピングガイド展」を富士見橋エコ広場館で開催する。
- 9月 第4次北区リサイクラー会議が発足する。(16人)
- 12月 北区が順次拡大してきた「びん・缶のステーション回収」が最後に残った田端地区での実施で区内全域を網羅する。(区単独事業としての実施は北区が初めて)

#### 平成7年(1995)

- 1月 富士見橋エコ広場館1周年記念行事「エコエコステージ」を開催する。  
※以後毎年開催 1995.1：東京都は事業系ごみの有料化をモデル実施する
- 9月 第5次北区リサイクラー会議が発足する。(25人)
- 11月 第3次リサイクラー会議メンバーが立ちあげた自主グループ「サンクル会」が、ゴミ減量と資源化をテーマにまとめた冊子「Look Again (ルック・アゲイン)」を刊行する。

#### 平成8年(1996)

- 1月 東京都清掃局と北区リサイクラー活動機構が共催する「'96クリーン東京フェスティバル in KITA」が富士見橋エコ広場館と滝野川会館大ホールを会場に開催される。(講演：松田美夜子氏「元気なごみ仲間」/ゲスト：毒蝮三太夫氏/コンサート：高橋エミ氏)
- 3月 前年3月に廃校になった旧北ノ台小学校に「北ノ台エコ広場館(百匠校房)」がオープン(3/2)、大道芸の実演などの記念イベントが開催される。
- 3月 北ノ台エコ広場館の管理運営を受託する。
- 3月 機関紙『ザ・リサイクラー』が終刊となる。
- 3月 学校給食残渣をコンポスト(一次発酵たい肥)化し群馬県甘楽町の有機野菜栽培に活用、育った野菜をエコ広場館で販売する「野菜リサイクル」システムが本格

的に稼働する。

- 6月 滝野川西区民センター2階に「滝野川西エコ広場館」がオープン(6/3)、記念イベントとして「リレートーク～循環型社会を創る～」を開催する。(6/3～9)
- 9月 第6次リサイクラー会議が発足する。(26人)
- 11月 北区が進めてきた区内の公立小・中学校への生ごみ処理機設置を全64校で完了する。  
1996.12: 東京都は事業系ごみの全面有料化を実施する

#### 平成9年(1997)

- 2月 北ノ台エコ広場館1周年記念行事「<sup>たたら</sup>多々楽まつり」が開催される。  
※以後毎年開催  
1997.4: 東京都はペットボトルの店頭回収を開始する(東京ルールⅢ)  
1997.4: 「容器包装リサイクル法」が本格施行される
- 6月 滝野川西エコ広場館1周年記念行事「キャロットひろば」が開催される。  
※以後毎年開催
- 9月 第7次リサイクラー会議が発足する。(23人)
- 9月 北区リサイクラー活動機構のホームページが開設されインターネットでの情報発信を開始する。
- 10月 事業系古紙回収事業を開始する。
- 11月 江戸時代に特産品であった滝野川ごぼうが、滝野川のリサイクル活動団体「車いすを送る会」の依頼を受けた群馬県甘楽町の有機農業研究会により復活、滝野川西エコ広場館で販売を開始する。
- 12月 都市型農業フォーラム「都市で“農”のある暮らしを！」を滝野川会館で開催する。(コーディネーター: 宮城道子、パネラー: 伊達昇、黒澤賢太郎、竹腰里子、青柳徳俊、菊池隆重)

#### 平成10年(1998)

- 3月 「食と農のエコフォーラム in 甘楽」が群馬県甘楽ふるさと館で開催される。北区からの主な報告者は北区リサイクラー活動機構の竹腰里子代表、区民施設課の澤田和子課長、リサイクル生活課の清田初枝課長など。
- 9月 第8次リサイクラー会議が発足する。(26人)

#### 平成11年(1999)

- 1月 北区および北区リサイクラー活動機構、北区地域リサイクラー協議会などの共催で「エコエコまつり～ひろげようリサイクルの輪～」が北とびあさくらホールで開催される。(講演: 松田美夜子氏「ごみから学んだ暮らし方」)
- 7月 環境に配慮した買い物をする消費者を増やす運動「グリーンコンシューマー地域実験プロジェクト」事業を翌年年3月までの期間限定で実施する。※この運動は東京都生活文化局を事務局とするグリーンコンシューマー東京ネットの公募事業で田端駅通り商店街とともに運動を展開したもの
- 9月 第9次リサイクラー会議が発足する。(25人)  
1999.10: 東京23区は行政による紙類の資源回収事業を本格実施する
- 11月 14日、グリーンコンシューマーの普及活動における地域の交流、情報交換の場として「エコショップたばた村」を開店する。(2000年3月6日閉店)
- 11月 15日から翌年7月23日までの間、旧北ノ台小学校校舎取り壊しのため、北ノ台エコ広場館が休館になる。

#### 平成12年(2000)

- 3月 北区は、東京都から清掃事業を引き継ぐにあたり「北区一般廃棄物処理基本計画(エコプラン2011)」を策定する。
- 3月 古着・古布の拠点回収事業(ファイバー・リサイクル)を区内5ヶ所で開始する。  
2000.4: 東京都は清掃事業を各区に移管する
- 4月 北区は、清掃事業の区移管を受けて「北区廃棄物の処理及び再利用に関する条例」を施行する。  
2000.6: 循環型社会形成促進基本法が施行され「3R」の考え方が取り入れられる

- 8月 行政・事業者・市民が互いの立場の違いを理解して意見交換する場である「東京23区とことん討論会（第5回）」が、北区や北区リサイクラー活動機構の後援により滝野川会館で開催され「23区発！ごみゼロへのビジョン」を確認し合う。

#### 平成13年（2001）

- 4月 北区は、リサイクル生活課を「リサイクル清掃課」と名称変更する。
- 4月 第10次リサイクラー会議が発足する。（25人）  
2001.4：「家電リサイクル法」、「グリーン購入法」が施行される
- 6月 北区リサイクラー活動機構が特定非営利活動法人（NPO）資格を取得する。  
（6/19 認証 6/28 法人登記）  
2001.4：再生資源利用促進法は「資源有効利用促進法（3R法）」に  
全面改正して施行される

#### 平成14年（2002）

- 1月 岐阜県多治見市など美濃焼産地が取り組む陶磁器（食器）リサイクル運動「グリーンライフ21プロジェクト（1997年発足）」に協力、1日で30キロの不用食器を回収するなどの取り組みをする。
- 4月 第11次リサイクラー会議が発足する。（13人）
- 5月 広報紙「かわら版」（月刊）が第100号に到達する。  
2002.5：「建設リサイクル法」が施行される
- 10月 北区リサイクラー活動機構設立10周年記念事業「昔の暮らしを伝える渡辺うめ人形展—あぜみちの詩—」を北とびあ7階第2研修室で開催する。  
（10/6～10/20 入場者数：7,611人）

#### 平成15年（2003）

- 3月 第74回「明日塾」を開催—この回をもって休塾、「北区雑学大学」にその役割を引き継ぐ。
- 3月 北区明るい社会をつくる会（北区明社）が主催する講師謝礼・場所代・授業料無料（3タダ制）の講演会「北区雑学大学」が開校、北区リサイクラー活動機構が会場の貸与など運営協力するかたちで富士見橋エコ広場館で月2回開催を原則に開始される。（開講式：3/12 記念講演：小山宙丸氏）
- 4月 第12次リサイクラー会議が発足する。（21人）
- 4月 北区は、組織が環境保全に取り組むために作られた国際規格「ISO14001（環境マネジメントシステム）」の認証を取得する。
- 4月 北区は、王子清掃事務所と滝野川清掃事務所を統合して北区清掃事務所を発足させる。  
2003.10：「パソコンリサイクル法」が施行される

#### 平成16年（2004）

- 4月 北区は、安全・安心な暮らしができる地域づくりのために「東京都北区生活安全条例」を施行する。
- 4月 第13次リサイクラー会議の公募を行うも応募者少なく成立せず、この回をもって中断する。
- 5月 富士見橋エコ広場館10周年記念事業として『かわら版10年のあゆみ（第1号～第120号）』を発行する。
- 5月 学校給食コンポスト（一次発酵堆肥）から作った北区ブランド有機堆肥「北そだち」の販売を受託、エコ広場館で販売を開始する。

#### 平成17年（2005）

- 1月 北区は、拠点型集団回収を開始する。  
2005.1：「自動車リサイクル法」が本格施行される
- 5月 エコ広場館開設10周年記念誌『エコ広場活動10年のあゆみ』を発行する。

#### 平成18年（2006）

- 3月 北区は「東京都北区一般廃棄物処理基本計画（エコプラン2015）」を策定する。
- 4月 富士見橋、北ノ台、滝野川西の各エコ広場館について指定管理者となる。
- 11月 滝野川ごぼうの販売を食と農の交流事業として全広場館で開始する。  
（11月～3月の期間限定）

## 平成19年(2007)

- 10月 北区リサイクラー活動機構設立15周年記念事業「企画展＝昭和を今に伝える」を北とぴあ展示ホールで開催、芳賀一洋作品展、渡辺うめ人形展、小嶋敏子展など多彩な展示を行う。(10/25～28 来場者数：5,000余人)

## 平成20年(2008)

- 1月 北区は、東京都北区資源循環推進審議会から「循環型社会の構築に向けた北区の施策のあり方」についての答申を受ける。
- 3月 赤羽駅高架下に第4号館となる「赤羽エコー広場館」がオープン(3/12)し管理運営を受託する。
- 4月 既設3館に新設の赤羽館を加えた4エコー広場館の指定管理者となる。
- 6月 北区の集団回収などで集められた古紙を使用した区民参加型トイレットペーパー「北くるり」の販売が各エコー広場館で開始される。

## 平成21年(2009)

- 3月 赤羽エコー広場館1周年記念行事「エキエコ祭り」が開催される。  
※以後毎年開催
- 3月 北区は「東京都北区一般廃棄物処理基本計画(エコープラン2018)」を策定する。
- 4月 ペットボトルのキャップを回収する「エコキャップ運動」に協力するためエコー広場館に回収ボックスを設置する。
- 4月 エコー広場館事業紹介パンフレット『地球優々ライフーきたくエコー広場』を発行する。
- 5月 NPO法人日本入れ歯リサイクル協会の取り組みである「入れ歯の回収事業」に協力するためにエコー広場館に回収ボックスを設置する。
- 5月 使用済み天ぷら油などを回収して環境にやさしいディーゼル燃料としてリサイクルするために、エコー広場館で「廃食油の回収事業」を開始する。
- 6月 北区は、東京都北区3R懇談会の検討結果報告を受けて北区リサイクラー活動機構などの団体・企業とともに「東京都北区レジ袋削減協働宣言」を行う。

## 平成22年(2010)

- 3月 全国農業協同組合中央会が審査する第39回日本農業賞で、甘楽町有機農業研究会の「未利用有機物を軸に都市と農村を結ぶ」が優秀賞(第6回食の架け橋賞)に輝き表彰される。
- 3月 北区リサイクラー活動機構の「北くるり」が、地球に優しいトイレットペーパーとしてみんなが選んだ北区の名品「北区名品ガイド30選 Vol.2」に選ばれる。
- 12月 8年近く中断していた地域学習会「明日塾」を再開する。再開第1回は、松田美夜子氏の講演「東京のリサイクルは北区から始まった」と鼎談「現場、当事者の本気が“地元”の力をつくる」(谷本有美子、竹越里子、鰐淵順一郎の3氏)  
※以降に開催された実績は別項「明日塾(あしたじゆく)の軌跡」をご覧ください。

## 平成23年(2011)

### 3.11 東日本大震災が発生し未曾有の被害をもたらす

- 3月 北ノ台エコー広場館15周年「多々楽まつり」(3/13)、赤羽エコー広場館3周年「エキエコ祭り」(3/30)および第2回「明日塾」(3/20)の開催を節電協力のため中止する。
- 3月 節電協力のため3/14～3/21の間各エコー広場館を臨時休館とする。
- 3月 『リサイクルを楽しもう～手づくり作品の数々～』(藤澤秀子・伊藤忠/著)を刊行する。
- 4月 毎年行ってきた「Clean & Green エコロジー・キャンペーン北区」の開催が中止となる。
- 4月 使用済みインクカートリッジの回収を開始、4エコー広場館に専用回収ボックスを設置する。
- 7-9月 節電協力のため7月、8月、9月について週休2日の輪番休館とする。
- 7月 滝野川西エコー広場館が活動の柱として取り組んできた「リサイクルdeボラン

ティア」、下拭き布や余り毛糸で作る膝掛などを福祉施設や病院に贈る活動に対して、北区立特別養護老人ホームの上中里つつじ荘と浮間さくら荘から感謝状が贈られる。

- 10月 北区リサイクラー活動機構NPO法人設立10周年記念事業「石井美千子人形展：昭和のこどもたち」を北とびあ展示ホールで9日間にわたり開催する。  
(10/8~10/16 入場者数：9,686人)
- 12月 『石井美千子人形展アンケート調査結果報告書』を発行する。  
(アンケート協力者数：2,148人)

#### 平成24年(2012)

- 4月 広報紙『きたくエコー広場』を創刊する。(季刊=1月・4月・7月・10月発行)

#### 平成25年(2013)

- 3月 創立20周年記念誌<資料集>『エコー広場活動20年のあゆみ』を発行する。
- 5月 北ノ台エコー広場館が5月から12月の間、耐震工事のため休館となる。
- 9月 北区リサイクラー活動機構設立20周年記念「感謝の集い」を北とびあで開催する。式典はつつじホールに320余人の参加を得て執り行われ、山田副区長、戸枝区議会議長らの祝辞の後、戸部昇氏の記念講演「川下から見た循環型社会」および家田紀子氏の「昭和の歌曲を唄う」が行われた。第二部の関係者による記念パーティーには花川区長も駆けつけ、飛鳥ホールとカナリアホールに2分して行われる。

#### 平成26年(2014)

- 1月 富士見橋エコー広場館20周年記念エコエコステージを開催、フリーマーケット、大型資源活用市、我楽多市や体験・さき布織り、模擬店など例年の催しに加えて、「こじこじもへじの大道芸」や「岸本悟明のプチ・シャンソンショー」等を催す。
- 2月 富士見橋エコー広場館20周年記念事業として『かわら版10年のあゆみ Vol.2(第121号~第240号)』を発行する。
- 4月 平成5年から毎年行われてきた「エコロジーキャンペーンin飛鳥山」が一定の役目を終えたこともあり、今回がラスト開催となる。定期開催の一翼を担ってきた活動機構は、区内の多くのボランティア団体とともに例年通りの“出前ステージ”で盛り上げる。
- 4月 JRの高架橋耐震工事のため赤羽エコー広場館が休館となる。(4/1~7/9)